

喫緊の課題と解決のための取り組み

	解決すべき喫緊の課題	第2回研究会での意見・情報	めざす目標	課題解決のための取り組み	取組の枠組み	取組の主体者	優先順位	現在の達成状況
1	不登校・登校渋り・学校に居づらさを感じる子どもに関すること	・30日不登校→日数ではなく学ぶことの保障をゴールに。 ・インクルーシブ校の実現 ・スペース（ホットスペース）があると良いが、スタッフ、場所が問題。また、そこにもなじめない子もいる。 ・教室に居づらい子がいる。校内教育支援センターを。 ・教室をうるさく感じる特性のある子、保健室しか逃げ場がない。保健室利用も、周囲を気にして「仮病」を使わざるを得ない。 ・保健室に小学校の時から知っている養護の先生がいて安心できる。同じ大人が6歳から15歳まで同じ子どもをずっと見ることができる。人事異動の時に工夫していただきたい。 ・小中のギャップを低くするという考えもあるが、違いを教えることも大事。そこでは、小中の教員がそれぞれの世界を知ったうえで自分たちの仕事をしていくことが大事。異校種の交流に期待。 ・にのみや学園として大きな学校になるとNPO,フリースクールも中に取り込むことができるだろう。多様な子どもにも対応できる。 ・NPO,フリースクールなど学校以外にも選択肢が広がった。外部も取り込んでネットワークの構築を。	すべての子どもが学ぶことから取り残されることがない体制 ・校内に教室以外の居場所がある ・校外の居場所を選択しても出席扱いになる ・学習や進路が保障される	1 不登校を生まないための取組 ①自尊感情の醸成 ②小1ギャップ、中1ギャップの解消 小中の教職員がお互いを知り、9年間の教職員という意識を持つ ③・異年齢による「コミュニティ」の創生と役立ち体験、成功体験の積み重ね、自尊感情の育成 ④9年間のカリキュラム編成による学び直し、学び進めでつまずきをなくす 2 学校や教室に行きづらい子どもへの対応 ①学校内外の居場所づくり ②フリースクール等との連携による「学校」の枠が合わない子どもたちの学びの保障 ③「3小学校区を残す」方針に沿って、小学校1校を通常教育課程とは異なる教育内容や指導方法が承認される、個々のニーズに合わせた学校（オルタナティブスクール）として設置	施設一体型 オルタナティブスクールの設置	学校 教育委員会		・中学の養護教諭が子どもの出身小学校からの異動なので子供の安心につながっている ・異校種の交流体験をする中で教員同士がお互いを知ろうとしているところ ・教室にゆとりのある一部の学校で、支援員の増員も受けながら教室以外の居場所を作っている
2	小規模校に関すること	・一色小は小規模だが、中学生になった姿はパワフルなので大丈夫。 ・保護者としては、一色小学校の子どもたちが心配。しかし、二宮小の子どもも山西小の子どもも仲良くしようとするし、柔軟で広い心を持っている。小学校同士、小学校と中学校の交流を増やすことで子どもたちの不安の解消になるだろう。 ・小規模校だと自分と「同質な」子どもが少ないので、「多様な」子どもと直接的にかかわらなければならない点が普通規模の学校の子とは違うと認識した。	適切な学級数の設定 ※二宮町小中一貫教育推進計画P.13参照	・学区再編案の作成 ・学区再編による3小学校区それぞれの児童生徒数の調整（教育委員会は3つの小学校区を残すことを前提としている） ・兄弟姉妹の通学校が変更になることを踏まえ、移行期間を設ける（6年間が必要となる） ・学区割について地域住民との協議	施設一体型の設置に伴う学区再編	教育委員会 町		小学生の中学校探検の回数を1回から3回に増やしている
3	施設・設備に関すること	①水泳授業が充実していない ・水泳指導が一回しかないが水難事故対策や水に慣れる機会が必要慣れる機会が必要 ②プールが欲しい。管理や掃除、消毒などは教員の負担にせず、民間の指定管理で ・民間とつなぎ、町民も利用できる形で運営 ③体育館の暑さ対策 ・体育館にクーラーを ・エアコン設置 ④汚く、使いづらいトイレ ・トイレを使いやすくしてほしい（二宮中・山西小） ・トイレが汚くて入りたくない子も ・洋式トイレにしてほしい ⑤その他 ・校舎の老朽化・・現校舎の修繕と今後の見通し	水泳授業の充実 様々な状況に応じて安全に運動できる環境 通常使用に加え、災害時や地域高齢者との交流時にも機能するトイレの整備 安全で快適な学習環境	①水泳指導時間を増やす プール、学校間の移動の時間を短くする ②プールを作る（新築または現存施設の活用） 町の公共施設再編の中で多機能施設（町民、児童生徒が利用できる。参考：品川学園）も視野に検討の余地あり？ 自然環境の変化を踏まえた柔軟な対応 学校の持つ機能を満たし、児童生徒、教職員だけでなく、町の財産として機能するよう改修 施設一体型小中一貫教育校の設置を視野に、着手時期や予算の設定	現行体制 現行体制 施設一体型	教育委員会 町 教育委員会 町 教育委員会 町		・水泳授業時間数の増加については学校教育委員会では対応を検討中

喫緊の課題と解決のための取り組み

	解決すべき喫緊の課題	第2回研究会での意見・情報	めざす目標	課題解決のための取り組み	取組の枠組み	取組の主体者	優先順位	現在の達成状況
4	地域との関わりに関すること	・PTAの任意加入が進んでいるが、、、 ・子供会の加入が少ない ・地域との交流・町ぐるみで子どもの見守り ・小学校の名札を無料に	地域活動やPTA活動に積極的にかかわる保護者を増やす	保護者、子どもの積極的な参加と意識改革を促す 魅力の創生・工夫と、保護者の就労状況に合わせた負担軽減の工夫	現行体制	学校 保護者 PTA		
5	小中一貫教育に関すること	①現在の分離型の取り組みについて ・実感がわからない ・子どもにとって意味がある？ ・一貫校として共通の行事を ・小学生の部活体験の回数 ②中学校での先生への連絡手段や緊急時の対応の統一を。一方で、統一する必要のないものもある。各校の独自性もあってよい。 ・小学校同士、中学校同士、学区内小中の情報共有を ・部活時の再登校の見直しを（給食がない時の部活で、昼食を家で食べてから再登校か、お弁当持参かが学校によって違う） ③変化に追いつけるように現場へのサポート、教員研修を（負担にならない形で） ④学校運営協議会の今後のあり方は？	①二宮町の学校教育の構想を町民が知っている ・子どもたちに意味のある小中一貫校を作る ・小中の交流が充実している ・9年間共に学ぶ環境が子どもたちにとってプラスになっている ②各校の特色を生かすとともに、子どもたちや保護者の利便性に配慮した統一性がある ③教員が負担なく研修を積める ④コミュニティスクールが小中一貫教育に有効に機能している	①にのみや学園の取り組み、特長や良さを分かりやすく周知 ②現行の取組や約束、決まりなどを各校持ち寄って検討 ③小中一貫教育の意義やメリット、デメリットなどを教職員が共有できるよう、継続的な研修を行う。研修は教職員の負担にならないよう、研修事業全体を精査し、その時々により二宮町が必要な内容に絞る。 ④コミュニティスクールが施設一体型小中一貫校として充実するよう、5校の協議を重ねる。	現行体制（施設分離型） 施設一体型	教育委員会 学校 学校運営協議会		にのみや学園の取り組みについては随時広報している。
6	登下校に関すること	・バス、自転車、中学の部活 ・一色、中里にスクールバス（通学バスを） ・一色地区 わくわく広場、各中学校を結ぶバス・登下校時の荷物の重さ考えなおす	安全で児童生徒に負担のない通学路や通学手段	・学区再編に伴って変わる通学手段について、通学に多くの時間を要することなく、また、安全に自転車通学ができるよう、コミュニティバスの運行時間や経路の見直し、自転車用レーンとガードレールの設置などを町として検討し、警察やバス会社など関係機関と調整	施設一体型	教育委員会 町		
7	その他	①多種多様な家庭背景と家庭教育、考え、価値観がある中で学校としての秩序はあってよい。自由と統一は学校に委ねても良いのではないか。 ・遊び方やSNSへの対応 ・給食はみんなでワイワイを復活 ・制服 マイノリティの声を大事に ・化学物質過敏症への配慮 ・ICT デジタル化でプリントをなくす ・学校の良さは共感する人との出会い ②子どもたちが、広い場所でのびのび遊べる場所が欲しい。ボールが禁止されたり、発散できない ・自由に遊べる跡地だが、行き帰りに時間がかかる子どもは下校後行かれず、遊べない ・安全に遊ぶための学校の決まりがほしい	①小中一貫教育（分離型）の中で各家庭や各校の独自性とよさが生かされている。同時に、子どもたちの学校生活を充実させる取り組みが足並みそろえて実施されている。 ②「規制」と「快適な住民生活」のバランスがとられ、安全にのびのびと遊べる環境が整っている。	①児童生徒、保護者のニーズを検討し、必要な改革を進める。 ②公園周辺住民の快適な住環境を守りつつ、一律に規制することなくそれぞれの地区の子どもたちがのびのび遊べる環境（公園）をつくる。	現行体制	教育委員会 町		・制服に関しては検討会が設置され、検討中 ・放課後の遊びに関しては現在、小学校に「約束」（きまり）がある。